

伊太利とくらぶ (二九)

瀧川 規 一

「ウフィチ、ピチ兩美術館」 フロレンス市行を企てる人は大抵このウフィチ (Uffizi) ピチ (Pitti) 兩美術館とバラチナ (Palatina) 美術館その他の陳列場を訪問する。文藝復興期の名匠の筆を鑑賞せんと欲する者は美術巡禮の連鎖の一大リンクとしてどうしても見逃す可からざる處である。然るに一國を代表する大美術館大博物館を一巡してその印象記を書かんとする時恰も田舎漢が一大博覽會を見物して來た時と同じく只見て來たと云ふに止まつてさて何を見て來たかと問はれると簡単に答へられない。他人がその一二を指摘して見聞談をする、それなら先刻見て來て承知してゐると云ふ顔をすることがある。何か印象の最も深くあつたものを話さ

ないと見て來たことにならない。

さりとて陳列品を始から終まで云ふのは面白くない。こんなことを云ふのは現筆者丈けではない。倫敦訪問記及び倫敦再訪問記を書いた著者ルカス (Lucas) も大英博物館、國立美術館のこゝとを書くに當つて同様の苦しい歎息を洩らしてゐる。今は上述の理由でラファエロ (Raffaello) とボチチエリ (Botticelli) の兩人の筆について述べフロレンスを引上げることにする。文藝復興期の名匠の一々を述べずに兩人のみに止めるのは單にそれだけの理由である。

「ラファエロ」 ラファエロ (Raffaello) と云へば誰でも知つてゐると云つて過言ではない。ボチチエリの繪は美術の玄人筋が推賞措く能は

ざる處であるが、ラファエルは素人筋即萬人好きのする繪を書く人である。前者には畫家の個性が歴然と現はれてゐる。後者はこれに反し圓滿無碍の處がある。これは勿論兩者の作品の代表作について云ふのである。今ピチ美術館にある所謂ドンナ・ヴェラタ (La Donna Velata) と稱せられるラファエルの愛人の肖像を覗いて見る。目鼻立ちのきつぱりとして整つた所謂羅馬人型の顔をして輝く黒眸をもち黒髪を正面に兩分しヴェールを被つて長く兩端を垂れ胸衣は金繡の白色であり、兩袖は縞筋のある黄緞子である。頸には輝く寶石の紐を卷いて右手を胸に當ててゐる。若々しい様子を如何にも浮世の屈託を知らぬげな顔をしてゐる。筆の運びも亦あつさりしてゐる。見る人によつて好惡の差は勿論あらう。然しこの晴やかで朗かな何のわけかまりもない顔に向つて筆者及び婦人の個性を問ふ者があるならばその人は、畫に對して一種の魅力の存在を否定する人であらう。そんな人

にはこの女の顔は浮世の荒波を経験せぬ女の顔だから強く深く印象を與へぬ。女學生中に往々見うける低脳美型であると思える。玄人筋には兎角の批評があらうとも素人には見て悪い感じのせぬ顔である。一五五〇年に書かれたヴァサリ (Vasari) の畫家列傳によるとこの繪はフロレンス市の商人マッテオ・ボッチ (Matteo Boti) が友人畫家の記念物としてながく秘藏してゐたが遺族が一六一九年にコシモ (Cosimo) 二世に遺贈したものである。兎に角この繪はラファエルが羅馬滞在時代に實在婦人について描いた唯一の肖像畫である。ラファエルは製作に熱中した結果家庭を作る餘裕がなかつた。郷里からもまた高官者からも縁談の申込はあつたが延期に延期を重ねてゐた。遂に一生を獨身に終つた。彼の一生は一四八三年から一五二〇年に至る四十三歳と云ふ短き一生であつた。ヴァサリによるとラファエルは最後まで一人の女を愛しその美しい生きたる肖像を描いた。その繪によつて

愛人の容貌は後世に傳つてゐる。然しその素姓が判らない。羅馬ヴァチカン宮内の一室にあるデスピュータ (Disputa) と題する壁畫の下繪の裏に畫伯によつて書かれた戀の十四行詩中の目的の女がそれであるか若くは畫伯が故郷ウルビノの伯父に宛てた手紙中に云へる美しいマモラ (Mamola bella) がそれであるか。それにしても猶素姓が判らない。

この愛の女は非常に身分の高い女であつたに相違ない。或は當時流行の理想の女であつたかも知れない。それにしても餘りに現實な繪である。ラファエルの理想の婦人はこれを彼の描くマドンナに求めなければならぬ。口さがなき者等は畫伯がバン屋の娘を戀うてゐたがその娘の肖像は羅馬の富豪にして名家であるバルベリニ (Barberini) の宮邸にあるフォルナリナ (Fornarina) と題する繪であるときとしゃかに云ひ傳へた。然し後の學者の研究によつてその繪はチウリオ・ロマーノ (Giulio Romano) の筆であ

ることが判つてバン屋の娘のことは否定された。

ラ・ドンナ・ヴェラタの美しい容貌が現實から理想の世界に移り行く階梯を求める。ラファエルはカーデナル・デイ・ブッチ (Cardinal dei Pucci) から一五一三年に注文を受け二年後に完成してゐるセイント・シシリア (St. Cecilia) と題する繪が今日巴里にある。これを注文した高僧はその親戚に當るエレナ・デユリオリ (Elena Duglioli) と云ふボローニア市在住の貴婦人の爲めに委嘱したのである。聖シシリアは金模様の白衣に身を纏ひ森林中に立つて片手に風琴を持ち四人の聖徒を伴つて居る。その中右側のモーダリンの聖王マリアは背高のすらりとした姿で容貌にはラ・ドンナ・ヴェラタの特徴を示して聖油壺を持つて居る。左側の聖ポールは劍に身を凭たせて冥想に耽つてゐる。背後には髭面の聖オーガスチンと若い聖ジョンとが中央のシシリアの顔を凝視してゐる。聖シシリアは天を眺め

て空から光が洩れ来るを持ち天使の歌に傾聴してゐる。バサリの言によればシシリアが手にもつ樂器とその脚下の諸樂器とはラファエルの愛弟子ジオヴァンニ・ダ・ウチネ (Giovanni da Udine) の描く處であると云ふ。巴里に移されて全く描き直され今日ではデッサンだけがラファエルのものとして残つてゐる。兎に角マリヤの顔及び聖シシリアの顔にもどこやらにラファエルの所謂愛人の面影が窺はれる。

次にピチ美術館にあるマドンナ・デル・グラン・デュカ (Madonna del Gran Duca) と云はれてゐるマドンナの姿を見る。幾多のマドンナの中最初期に描かれ最も美しいとせられてゐるものであつて、グラント・デューク (Grand Duke) であつたフェルディナンド (Ferdinand) 三世が一七九九年にタスカニの貧乏な一寡婦の家に見出して買上げたものである。それから太公爵は自分の行くどこへでも携帯してゐたものである。ウフィツチ美術館にはこの繪の下繪がある。

構圖が簡單であるが全體の配合がよく出来て居る。今ピチのマドンナの顔を覗ふに落着きがあり玲瓏として透通つた感じのする處がある。所謂ラ・ドンナ・ヴェルタがこの位の幼兒を抱く位の年齢に達した時にはこんな顔になるであらうと思へる。

ウフィツチ美術館にあるマドンナ・デル・カルデリノ (Madonna del Cardellino) を見る。この繪はラファエルが一五〇六年の年末までに描いたものであつてフロレンスの友人 ロレンツォ・ナシ (Lorenzo Nasi) に與へた結婚の贈物であつた。この繪ではマリヤが片手に書物を持ち洗禮のヨハネは幼兒の基督に葦の十字架を與へる代りに金翅雀をキリストの手にのせてゐる。ヴァサリによると、この繪はその出来榮えがよいのと友人の筆であると云ふので ロレンツォ・ナシは非常に大切に取扱つてゐたが一五四八年の地震の時に破壊されたのでロレンツォの息子が畫板を修繕したのである。さてこのマドンナも

亦どこやらに前のマドンナと似た處がある。只
稍肉附きがよくなつてゐる丈けである。

次に一五〇七年に描かれルーヴル (Louvre)
にあるラ・ベル・ジャルデニエル (La Belle Zar-
dinere) を見るとこれも亦何となく似てゐる。
この繪はラファエルがシエナ (Siena) の紳士フ
イリツボ・セルガルデ (Filippo Sargardi) の爲
めに描いたものであるがフイリツボはこれをフ
ランシス (Francis) 一世王に賣つたのである。
幼兒の聖ヨハネは片膝をついて十字架を持ちキ
リストは母を見上げて何か物を問はんとしてゐ
る様子である。

マドンナが雲の上に乗つてゐる繪を求めると
ヴァチカン (Vatican) 宮の美術館にあるマドン
ナ・デ・フォリニオ (Madonna di Foligno) であ
る。

この繪はもとデギスモンド・ディ・コンチ (Si-
gismondo dei Conti) と云ふ法王廳の内大臣の
爲めに描かれたものでアラ・ケリ (Ara Coeli) に

あるフランシスカン派の寺院に納まつてゐたが
後にコンチの故郷フォリニオに移され更に巴里
に移され再び巴里からヴァチカンに移つたので
ある。巴里から羅馬に行く際には板から布に移
された。マドンナは雲に腰をかけ雲の上に足を
載せてゐる。天使の頭の列で後光をつくつてゐ
るが、マリアの脚下の花咲く野には洗禮のヨハ
ネがマリアを指差して立つて居り、ヨハネの足
許に聖フランシスが跪いて一部分恍惚として天
界の幻影を見上げながら同時に片手を地に向つ
て延ばし悲しめる人間の爲めに神の慈悲を求め
てゐる。向側には聖ゼロムが片手を老齡の繪の
奉納者の頭の上に載せてゐる。この老齡の奉納
者は貂皮のカラをつけ深紅色の服をつけて聖ゼ
ロムの傍に恭しく跪拜してゐる。兩側に居るこ
れ等の人々の中間に一人の小兒の天使が板札を
横にして持ち天界を眺め地上の聖徒等と天界の
聖靈との連鎖をなし、背景には遙か彼處にはフ
オリノの都市が見え、空には虹と流星が見える。

奉納者の高僧が故郷の都會で爆彈の炸裂に際し
幸じて難を免れた記念の爲めにこの繪は描かれ
たと云ふ。笑を含めるキリストの顔は從來の
たづら小僧を豫想せしめるものとは趣を異にし
てゐるが、マドンナの顔は頭大頤細になつて今
迄述べて來たものとは似てゐない。雲界に浮游
せる點が次のドレスデの繪に至る階梯をなすの
である。

先頃罹災したかと心配させたマドンナ・デ・サ
ン・シスト(Madonna di San Sisto)と題してド
レスデン博物館に有名な繪がある。この繪の爲
めに一室が特に宛てられてあり畫前に置かれた
長椅子に腰を下ろして繪を凝視する時何人も立
ち去ることを忘れしめる程である。精緻巧妙に
印刷されてゐる筈の模寫版でさへ一旦この繪の
實物を見る時には模寫版を買ふ氣持になれぬ程
差異がある。ラファエルは一五一五年かその翌
年頃に伊太利の古市ピアチンツァ(Piacenza)に
あるサン・シスト(San Sisto)教會の高僧アント

ニオ・デイ・モンチ(Antonio dei Monti)から注
文を受けて同教會に納入した。一七五三年にサ
クソニ(Saxony)のオーガスタス(Augustus)
三世が九千磅で購入して後ドレスデンの美術館
に今日まで展觀されてゐるのである。聖母がキ
リストを抱いて雲に腰をかけ地上の諸聖の渴仰
を受けてゐるのは前のフオリニオのマドンナで
ある。サン・シストのマドンナはキリストを抱
いて最高の天から降下せんとしてゐる。立姿で
ある。聖母の透徹玲瓏な顔はマドンナ・デル・グ
ラン・デューカの聖母の顔に似て居り従つて連
鎖的に原始の聖を求むれば最初云つた愛人の顔
ラ・ドンナ・ヴェラタの顔に到達するのである。
マドンナ・デ・フオリニオの繪に於ける基督はこ
ゝに描かれた基督及び下の欄杆に肘をついて上
空を見上げてゐる二人の天使と型を一つにして
ゐる。從來の如きにくらしさが無い。マドンナ
の顔は如何な極彩色の精妙さを以てしても寫し
得ない清澄な感じのする額をもち神秘の靈光を

發する眼眸をもつてゐる。看者を恍惚たらしめると共に記念の寫眞版さへ買ふ氣を起さしめず。復寫は復寫に過ぎぬの嘆聲を發せしめる。欄杆に肘を凭たせてゐる天使を見下ろして微笑をたぐへてゐる右側の跪坐の女性は聖バーバラ(St. Barbara)である。聖バーバラは基督教に改宗した爲めに肉身の父によつて首を刎ねられた殉教者である。伏目勝ちのバーバラは毀損されてゐると云はれてゐるが吾々の目には典雅と威嚴とを印象づけるのである。信神深い敬虔の態度でマドンナとキリストとを崇拜してゐる老人は法王シキスタス(Pope Sixtus)一世である。この繪に於ては線と云ひ色と云ひ天風に飄へる服裝と云ひどの人物にも欠點を見出し難い。構想の調和の完備せるものであり、ラファエル嫌ひの評家でもこのシスチン・マドンナだけは惡口を云はない。

玄人筋すらさうであるとなせば素人筋の鑑賞家が渴仰隨喜の涙をこぼすのは當然である。ラファ

エルがフロレンスに修業に來て以來描いて來た多くのマドンナを精鍊に精鍊を加へてその妙處のみを保持し意中の愛人を基礎にして作り上げた傑作がこのマドンナ・ヂ・サン・シストである。英人は單にこれをシスチン・マドンナと呼んでゐる。

今はラファエルの描いたマドンナを通じて畫伯の愛人の影響を見たのである。英國十九世紀の自然科學者トマス・ヘンリ・ハクスリ(Thomas Henry Huxley)は白色人種有色人種の差別待遇を論じ男性女性の優劣論をなした序に情熱の優しさは女性にあると云はずして男性が寧ろこれを有する例證としてアデライダ(Adelaida)に題するベートーヴェン(Beethoven)の作曲はベートーベン夫人が作つたのでなくその主人が作つたぢやないかと問ひ、ラファエルのフォルナリナ(これは誤傳であつたことは既に述べた)はその女性の描く處とならず男性の畫伯の筆でないかと云つた。既に詳述した理想愛

の精華を畫家のマドンナに於て如實に見出すのである。現實に愛人が存在してゐてもゐなくてもそれは問題にならない。

新著紹介

○實驗礦物地質學(I) 福田運著 菊版三六二頁十一六

頁十一七頁四月東京代々木昭晃堂發行 定價三圓九〇錢
出づべくして出なかつた實驗と實物の觀察とによる礦物學及地質學の學習書が刊行されたのが本書である。第一頁から對稱の説明にかうある。「野球場は二壘と本壘とを結ぶ線上に對稱面が一つあるが、庭球場には縦と横に二つの對稱面がある。庭球場の對角線は其の場内を相等しい二部分に分つけれども對稱面では無い。」この調子で礦物學の教課を進まして行くなれば著者福田理學博士の教鞭を執つてゐられる成蹊高等學校の生徒の様に、どの高等教育並に中等程度の學校でも生徒が熱心に興味ある教授を受け得られる筈である。本書を通觀すると近代の礦物學に必要である事項例へば結晶の投影法、蝕像、固溶體のことが詳しく判り易く説いてある。設問が一々あつて學習には都合がよく、殊に大々的に良いことは薄片礦物檢索表と結晶面角一覽表とのあることでこれは獨り學習者に便なる計りでなく研究者に取つて種々の原書をあさ

る手数を省いて呉れる。尤も之等の諸表は別に實驗礦物判定表なる一書となつてゐるさうである。著者は本書を「中等及び高等程度の學生實驗書として、また此等の學校の先生や、小學校の先生の參考書として役立つ」爲めに著されたのであるが、もし本書によつて礦物學を學べば檢定試驗合格は請合ひである許りでなく一生涯礦物學の研究家乃至は愛好者になつて了ひさうである。たゞ多くの礦物學地質學書の第一版がさうである様に本書にもかなりの誤植が見受けられるのは遺憾である。本書第二編の地質學の部が出版されるのを冀望するのは日本地學界の等しく感ずる所であらう。(中村)

○日本鳥瞰圖

西村健二編 第三輯

東京淺草向柳原東京都成館發行 昭和七年六月

五枚一組 一枚七十錢

本圖の第一第二兩輯に就いては本誌六月號に紹介して置いたが今その第三輯五葉が出版された。曰く北アルプス、曰く有珠火山と洞爺カルデラ湖、曰く櫻島と鹿児島市、曰く屋島臺と五劍山、曰く大分別府地方で、前輯と同じく火山地方が多い。この五葉中北アルプスは描畫細密であつて壯大な山容を充分に看取することが出来るが、數年前某氏の地形圖より描いた鳥瞰圖に比して筆勢が強い。櫻島に於ては新熔岩を色で現はした爲めに火山活動の有様が明瞭に窺はれる。前輯に就いて述べたと同じく此等五葉のものは地學教課用としても地學愛好家の觀賞用としても絶好のものである。但し新